



従って、事故報告書の内容そのものに信憑性が確保できていないため、関係者に事故当日にどのような説明を「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」から受けていたかを再確認する必要が生じました。さらには、その説明を裏付ける目撃者の確認の必要も生じました。そのため、私たちはこの事故報告書(令和5年1月16日作成)を受けてから、頻回に事故現場に立ち情報収集に努めることになりました。

これらの得られた情報を集約し勘案すると、アルプスの森(施設長：宇津慎史)が作成した事故報告書(令和5年1月16日作成)の内容に多くの疑問を残す結果になりました。

1.2-2) そこで私たちはアルプスの森(施設長：宇津慎史)に上記解離内容を指摘し、その乖離状況を説明するため、上記の情報収集で得た情報の一部をアルプスの森(施設長：宇津慎史)に提供しました。

今までの度重なる「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」の不誠実な対応から、当方はある程度情報を掴んでいる事実を提示しない限り、正確な情報を施設側は提示してこないことが解っていたためです。

しかしながら、あくまでも提供した情報は一部情報のみです。この情報のみを使ってつじつま合わせを行うと、虚偽の記載が発生してしまいます。そのような状況下において、私たちが提出した疑問点と情報に対し、アルプスの森(施設長：宇津慎史)は回答書(令和5年3月16日作成)を当方に送ってきました。

この回答書の内容は、こちらが提供した一部情報のみを反映したものであり、当方が掴んでいる情報と(主に事故当日に施設側が説明していた内容との乖離が問題なので、確実に施設側は情報を持っているにも関わらず)かなり大きな解離が生じていることが再確認されました。

1.2-3) さらには、明らかに事故報告書(令和5年1月16日作成)の内容と、回答書(令和5年3月16日作成)の内容に多くの矛盾が認められるところもあります。少なくとも事故報告書(令和5年1月16日作成)か、回答書(令和5年3月16日作成)の一方が虚偽でなければ成立し得ない内容が散見されています。

従って私たちは、アルプスの森(施設長：宇津慎史)に対して事故を隠蔽しようとするのはいい加減に諦めて、事故に真摯に向き合い、事故に関してきちんとした説明をして欲しいと望み続けているのです。

・3) に関してですが、悠生君が見つかった時に裸であった事に関し、私たちは Twitter でツイートしておりますが、その事に関し、アルプスの森(施設長：宇津慎史)側は、わざわざ Twitter 上でなく、弁

護士を通した通知書で反論してきました。内容としては、(施設代表者:宇津慎史)と(児童発達支援管理責任者:宇津雅美)の兄弟がともに、悠生君が見つかった時に掛けられたブルーシートの間隙から服を着ていた点を確認しているとのことでした。

私たち親は、ほぼ毎日、悠生君が苦しんだ光景を想像し、心をうちひしがれる思いをしています。悠生君が見つかった時に悠生君の最後の本当の姿を見て、私たち親が「アルプスの森(施設長:宇津慎史氏)」を信用してしまったばかりに、大切な悠生君にどのような思いをさせてしまったのか、そしてどのような結果を招いてしまったのか、謝罪の念と後悔の念で苦しい思いをしています。

でも私たち親が、「アルプスの森(施設長:宇津慎史氏)」を信用してしまった結果ですので、私たち親が犯した過ちを誠実に受け止め、生涯にわたって悠生君に謝罪をし続けることは、私たちがこの子にしてあげることが出来る最後の親としての務めと思っています。

しかしながらインターネット上での過激な表現は避けるべきと考え、悠生君の最後の表情や状態(呼吸困難で顔がうっ血し腫れあがった状態であったこと。また苦しくて目が開いていた状態であったこと。ヘドロだらけの川底に居たため、顔がヘドロまみれであったこと。1週間も水の中に居て腐敗が認められた事。さらには服を着ていなかったので葬儀社から、葬儀の時に着る服を持って来てほしい。ただ体の状態があまり良くないので服を着させてあげることが出来ないかも知れないと言われたことなど)など強烈に私たち親に悠生君が訴えていた事に関しては言及していません。

それにも関わらず、最低限の表現であった苦しくて服を脱いでおり裸の状態であったとのツイートに関して、宇津兄弟「(施設代表者:宇津慎史)及び(児童発達支援管理責任者:宇津雅美)」が反論してくる状況は、あまりにも現状を把握しておらず、最後に悠生君がどのような思いをしたのかを理解しようとすらしていないことが伺えます(事実、宇津兄弟は、悠生君が見つかった時、警察署に来て悠生君に会うことを土壇場で拒否しています)。

さらに本事故では、アルプスの森(施設長:宇津慎史)の送迎時の不適切な対応のため、悠生君が行方不明になってしまっています。この為悠生君は、検視のみでなく司法解剖まで適応になってしまっています。その結果を私たち遺族は警察から教えて頂いております。

しかしながらアルプスの森(施設長:宇津慎史)は、このツイート内容に関し、私たちに悠生君が裸であったことは嘘である。警察が本当にそのようなことを述べたのであれば、その警察の名前を教えるようにと指示してきました。

この指示に対し、悠生君の母親は直ぐに吹田警察署に電話し、事実確認と警察の名前を尋ねました。吹田警察署は、説明した警察が誰かは解らないが、検視結果において悠生君が裸であったことは事実であり報告にあがっていることを教えてくれました。

従って、悠生君が見つかった時の姿においても、宇津兄弟「(施設代表者:宇津慎史)及び(児童発達支援管理責任者:宇津雅美)」は虚偽発言を行っております。

この「アルプスの森(施設長:宇津慎史氏)」側の対応において、事故を起こした当事者

意識がまったく感じられませんし、生涯にわたって悠生君に対して誠意をみせ続ける覚悟があると到底思えません。

・4) に関しての理由も不明です。「アルプスの森 (施設長：宇津慎史氏)」が作成した当該通知書には、特に「アルプスの森 (施設長：宇津慎史氏)」が懸念している個人情報関係の記載はありません。それにも関わらず、文章をインターネット上の公開を控えることを望む理由が不明です。当方としては、当該通知書の記載内容に関して、貴社自身が、不当な言いがかりであることを認識しているための処置であるとしか思えません。

しかしながら、私たち遺族は、宇津兄弟 (宇津慎史及び宇津雅美) が如何に不誠実な対応をし続けていようと、同様の不誠実な対応を私たちが行うことは、悠生君も望まないと思っております。

Twitter は「アルプスの森 (施設長：宇津慎史氏)」側がホームページなどで事故に関する内容(事故の詳細な説明や、施設が行った事故原因の追究処置、さらにはこの事故から得た事故対策などに関して)の記載を、私たちが望むにも関わらず拒否し続けてきたため、仕方なく始めたものです。

事故自体を隠蔽してしまっただけでは、そこから学ぶべき安全対策の方法や知識を得ることが出来ず、同じような事故被害が今後も出続ける状態に陥る可能性が高まります。

さらに「アルプスの森 (施設長：宇津慎史氏)」のこの事故に真摯に向き合わない態度は、重大事故隠蔽の前例を作ることになり、死亡事故を軽視する前例を作ってしまうこととなります。

私たちは Twitter を通し、私たちの考えに対し、多くの賛同や励ましの言葉を頂いております。これらの温かい言葉をかけて下さった方々に対して、事故情報を可能な限り公表していくことは、私たちが見せなくていけない誠意であり、私たちに課された使命であり、責務であると思っております。

しかしながら、Twitter ではどうしても公表できる情報量が限られてしまいます。従って現在、事故に関するホームページを作成中です。そのホームページなどで、本文も含め事故内容に関し、可能なものは、逐次、公開させて頂く予定です。

Twitter での記載内容「事故に関する説明が二転三転している」に関しての返答と致しまして、公正を期す目的においても、事故報告書(令和5年1月16日作成)及び回答書(令和5年3月16日作成)を本文に加え、ホームページで公表させて頂きます。